

【阿武町】地域ぐるみの防災キャンプ

〈ねらい〉

地域・保護者・関係機関が連携し、大雨やそれによる土砂災害を想定した避難ルートを考えることを通して、児童生徒が災害発生時において、正しい知識をもとに的確に状況を判断し、自ら安全に行動することはもとより、他の人や社会に貢献できる心と実践力の育成を図ります。



実施内容

- 1 実施日時：令和2年11月7日（土）
- 2 実施場所：阿武町のうそんセンター
- 3 参加者：福賀小学校児童6人、阿武中学校福賀地区在住生徒7人、保護者8人
阿武中学校地域貢献ボランティア6人
地域住民（消防団、婦人会関係者）17人、
福賀小教職員1人、阿武町関係部局職員7人、県教育庁職員1人

4 プログラム

9:30	10:15	11:30	13:00	15:00	15:50	
受付	開会行事	【研修Ⅰ】 大雨災害避難ワークショップ ①気象庁ワークショップ「経験したことのない大雨 その時どうする？」改変 ②福賀地区の防災マップを使って	【研修Ⅱ】 保存食の紹介、分配、 実食	【研修Ⅲ】 避難ルート実地見学 ○避難場所を中心に4方向に分かれて ○実地見学で分かったことをもとに、避難ルートの修正	【研修Ⅳ】 発表、まとめ、振り返り	閉会行事

5 活動の様子

1日目

《大雨災害避難ワークショップ①②》ファシリテーター：福賀小学校校長 講師：阿武町防災担当
気象庁が作成しているワークショップ「経験したことのない大雨 その時どうする？」を一部改変し、架空の町に住む5軒の家庭について、防災気象情報と家庭ごとの状況カードを手掛かりに、避難を開始するタイミングと避難ルートを考えました。講師による指導助言と過去の水害状況の確認後、福賀地区のハザードマップ上で、大雨土砂災害時の避難ルートを考えました。



〔避難所持参物でアイズブレイク〕



〔架空の各家庭の情報整理〕



〔避難ルート、開始時刻、理由の発表〕



〔ハザードマップについての指導助言〕



〔過去の福賀地区水害の様子確認〕



〔マップ上での避難ルート想定〕

《保存食の紹介、分配、実食》

非常用保存食を準備しておく量、特徴、期限切れを防ぐ方法や防災バッグの中身例について学んだあと、グループごとに支給された保存食を分配しました。意図的に、全員に同じ品が均等に行き渡らないように箱詰めされた食料を、年齢層やアレルギー、個人の嗜好などに配慮しつつ分配をしました。調理器具が足りない状況も、そこにあるもので工夫して乗り越え、昼食を取りました。食べながら、過去の水害の様子を消防団の方々からお聞きしました。



〔非常用保存食の量や特徴、防災バッグの中身等についての講義〕



〔支給される食料〕



〔配慮し合いながらの分配〕



〔役割分担による効率的な調理〕



〔なべとお玉でお湯を注ぐ〕

《グループ別避難ルート実地見学、まとめ、発表 指導者：阿武町消防団》

グループごとにタブレット端末で危険箇所を撮影し、午前中に作った避難ルートを修正しました。



〔消防団指導のもと危険箇所を撮影〕



〔画像を見ながらルート修正〕



〔修正した理由を添えて発表〕

【児童・生徒・保護者の感想から】

- 架空の町のワークショップでは、家族構成、家の立地によって避難ルートが変わってくることが分かった。家によっては、そのまま残る方が良いこともありそうと思った。
- 前回の水害と照らし合わせながら、どういう場所が危険なのかを考えながら避難ルートを決めた。日頃からどんな避難をするのか考えておいて、臨機応変に対応することが大切だと思った。
- どこが危なく、どこが安全なのか考えることができた。福賀の人たちは、どこが危ないか分かっていたので、自分も奈古の危険箇所を把握したいと思った。
- 災害時用の食料をメインに、今日の学びを振り返りながら家族で夕食を摂った。家の裏は山で、大雨の日は山崩れが起きないか心配することが実際あり、子どもたちだけで留守番をすることも。ワークショップで子どもたち自身が自分のこととして考える経験ができてとてもよかった。